

2007年9月4日

東日本旅客鉄道株式会社

## 「社会環境報告書2007」の発行

このたび、JR東日本グループの環境などへの取組みをまとめた「社会環境報告書2007」を発行いたします。

持続可能な社会へ向けたJR東日本グループの活動を、安全面、社会面、環境面の3つの側面から幅広くご紹介いたします。

### 1 社会環境報告書の発行

JR東日本グループの持続可能な社会へ向けた取組みについて、安全面（鉄道の安全性向上に向けた取組み、体制など）、社会面（サービス、地域貢献、社員の働きがいなど）や環境面（地球温暖化防止、資源循環など）について幅広くご紹介する「社会環境報告書2007」を発行いたします。本報告書を通じて、多くの方に当グループの取組みをご理解いただくとともに、ご意見をいただくきっかけとなるツールとして活用してまいります。

また、主要な内容をピックアップした「ダイジェスト版」も作成し、社員の環境意識をさらに高めるために全社員へ配布するほか、様々なイベント等でも配布してまいります。

今回作成した社会環境報告書の主なポイントは、次のとおりです。

#### 「3つの視点」から当グループの社会的責任への取組みをご説明（P8～P13）

本報告書では、前半で「3つの視点」として、JR東日本グループの社会的責任について「安全」「サービス」「環境」の側面から、考え方をご説明するとともに、具体的に取り組む社員のコメントを掲載し、取組みの実態をお伝えするページとしました。

#### 「特集」として重要な課題などをご説明（P14～P19）

重要な課題への対策の進捗状況や、環境活動の拡がりについてご説明しています。

- ・羽越本線事故を受けた対策（P14～15）
- ・各地で「エコ活動」の輪が広がっています（P17）
- ・新潟県中越地震を受けた対策（P15）
- ・グループ各社の環境への取組み（P18～19）
- ・首都圏輸送障害低減に向けた対策（P16）

#### 進捗があった取組みなどについてコラム形式でご紹介

進捗があった主な取組みや、取組みの背景をより具体的にお伝えするため、積極的にコラム形式でご紹介しています。

#### 【主なコラム（一部）】

- ・運転士の養成と社員のコメント（P26）
- ・新幹線・特急列車の全面禁煙（P31）
- ・男女共同参画と社員のコメント（P37）
- ・研究開発（ハイブリッド鉄道車両など）（P45）

## 2 2006年度の主な環境保全活動について（P40）

地球温暖化防止のための取組みである「事業活動に伴うCO<sub>2</sub>総排出量の削減」については、2004年の新潟県中越地震で被災した自営水力発電所が2006年3月に復旧したことから、その影響が取り除かれました。さらに、2006年6月に自営火力発電所の燃料の一部を灯油から天然ガスに転換したことなどの効果もあり、1990年度比23%の削減となりました。（地震発生前の2003年度は20%削減）

【2008年度目標：22%削減】

減速時の運動エネルギーを電気エネルギーに換える回生ブレーキや効率的なモーター制御を行なうVVVFインバーターを搭載した「省エネルギー車両」の導入率については、前年度より2ポイント向上し、83%となりました。

【2008年度目標：82%削減】

「駅や列車で出されるゴミのリサイクル率」は、前年度より3ポイント増加の50%となりました。

【2008年度目標：45%】

グループ全体の目標である「一般廃棄物のリサイクル率」は前年度より1ポイント増加の43%となりました。

【2008年度目標：43%】

詳しくは、「社会環境報告書2007」をご覧ください。なお、「社会環境報告書2007」は当社ホームページ（<http://www.jreast.co.jp/eco/>）でもご覧いただくことができます。